

安全



安心

# JAL不当解雇撤回ニュース

No154号 2012.04.20  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>

判決のどこが不当か！ その⑥

## 安全軽視のJALの姿勢を容認し、原告の訴えを無視した地裁判決！

東京地裁の判決は、整理解雇の人選基準である病欠と年齢基準は、安全運航に及ぼす影響はないとして、整理解雇を容認しています。会社更生中であろうとも、安全運航を第一とした経営がなされなければ、公共交通機関としての真の再建を果たすことはできません。以下に安全に対する認識不足の判決と問題点を紹介します。

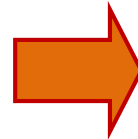
### ベテラン乗務員の経験を全く無視した判決

#### <乗員判決>

必要な知識や経験の多寡が年齢と相関関係にあると認めるだけの根拠はなく、年齢基準が運航の安全確保の点で大きな脅威になるとの原告らの主張は根拠の乏しいものである。

#### <客乗判決>

数年経験すれば、保安業務についても一定のレベルに到達するものと考えられるし、本件解雇によって保安業務についての知識、経験豊富なベテラン客室乗務員がすべて解雇される者でもなく、ノウハウの伝承に支障を来すものとも考えられない。



#### <問題点>

裁判では、ハドソン川の奇跡を例にしたベテランの重要性や、機内で起こる不安全事例に対する、ベテランの対応力の高さが立証され、ベテランの重要性は明らかになっていたにも関わらず、両裁判長とも、ベテラン乗務員の経験について全く評価していない。

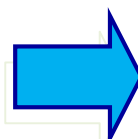
### 病欠基準による解雇によって不安全问题は生じないとする判決

#### <乗員判決>

多数の乗客乗員の生命や財産を預かる航空輸送に携わる者として高い職業倫理を有する運航乗務員や航空会社の産業医が、過去の整理解雇において病欠基準が採用されたことから、本来行われなければならない判断を放棄して運航の安全に対する脅威となるような判断を行うと言った事態はにわかに想定しがたい。

#### <客乗判決>

病欠基準を設定することによって、将来的に病欠欠勤の取得が抑止される結果、安全運航に支障を来す事態になるという原告の主張は「単なる憶測に過ぎず、統計的な裏付けがあるわけではなく、論理の飛躍である」などとして原告の主張に目を向けなかった



#### <問題点>

病欠を解雇の理由とした問題で、「病欠でも素直に申告して仕事を休みにくい」との職場の声があることは、会社も認めていることです。

現に今年1月に機長が肋骨が折れたまま乗務し、帰着した時は車いすで搬送されたケースがありましたが、まさに休めない物言えぬ象徴的な例です。

# 会社も危機感募らす職場の状況

## トラブル続きに会長から全社向けに異例のメッセージ

現在JALでは、短期間に戻もち事故やエンジン空中停止などの事故や、各職場で不安全事故が続発する深刻な事態になっています。その為、4月11日から4月27日まで「特別安全キャンペーン」が実施されています。またそれに先立ち、安全推進本部長でもある大西会長は、安全意識を高めるため、全社員向けに異例のメッセージを発表しました。

### 大西会長の メッセージ

- ◆この2週間ほどの間に、各職場でヒューマンエラーによる不具合事例・人身事故が続いている。
- ◆「安全」に対する思いを再確認するため、特別安全キャンペーンを実施する。
- ◆組織長に向けて、他部門で発生した不具合事例も自らのこととして考えること、不安全事故を配下の者と共有し、自分たちに何が出来るのか組織長自ら考え、自らの言葉で配下の者に伝えてほしい。
- ◆「安全のプロフェッショナル」として高い安全意識を保ち続けなければならない。全社員の力を結集して、安全の砦を守り抜きましょう。

## 整備の職場でも重大人身事故多発

整備の職場では重大人身事故や不安全事故が多発しています。重大人身事故では指の切断を含めた指を切る事故が昨年12月から3件起きています。

職場で出された安全衛生情報には、「このままの状況が続くと最悪の死亡事故にもつながる可能性が十分にある」とまで書かれています。

一昨年行われた45歳以上を対象とした希望退職で、大量のベテラン整備士がいなくなり、技術の伝承ができにくくなっていることや、労働条件低下やモチベーション低下がこうした事態を引き起こしていると考えます。子会社である整備会社（日東整）を潰し、そこに働く全労働者の仕事を奪ったこと等も決して無関係ではありません。



## 客室の職場でも「有意注意」が繰り返し出されますが……

離陸中、機内食の入ったカートが調理室から飛び出し、ビジネスクラスを越えエコノミークラスの座席に挟まって止まったケースがまた発生しました。昨年、CAが立ったまま着陸するという前代未聞の事例が2度起こりましたが、客室の職場でもこうした不安全事故が後を絶ちません。ベテランが大量にいなくなったことや、安全よりも利益優先の経営方針の下、行き過ぎたサービスで業務量が多くなっていることも要因の一つと考えられます。

## 行き過ぎた人員削減と、利益優先の経営姿勢に問題



破綻後、希望退職で多くのベテランが職場を去って行きました。またJALグループで更生計画上の人員削減目標を1300人もオーバーしたにも関わらず、整理解雇を強行した結果、職場は人が足りない状況になっています。また、稲盛前会長の利益優先の教育が職場に浸透し、安全に対して物がいえない雰囲気になっています。物言うベテランを排除したつげが出ているのではないのでしょうか。